

(仮称) 篠路駅周辺地区まちづくり計画 第 1 回地域協議会 議事要旨

【日時】 令和2年9月11日(金) 18:30~20:30

【場所】 篠路コミュニティセンターホール

【出席者】

○地域協議会委員

所属/役名等	氏名(敬称略)
太平百合が原連合町内会/会長	庵跡 邦子
篠路地区街づくり促進委員会/会長	井形 信広
わきあいあい篠路まちづくりの会/会長	石本 依子
篠路小学校PTA/会長	菊地 智昭
拓北・あいの里連合町内会/会長	近藤 幸一(欠席)
篠路茨戸連合町内会/会長	進藤 幸司
アカツキ交通/常務取締役	春原 啓慶(欠席) 春原 良裕(代理出席)
篠路中央商店街振興組合/副理事長	寺田 哲
区画整理地権者	中西 昌裕
篠路駅前郵便局/局長	西村 司
篠路茨戸地区社会福祉協議会/会長	藤井 國夫
篠路神社/宮司	森 泰文
篠路コミュニティセンター/館長	吉田 香
しのろ紙袋ランタンまつり実行委員会/実行委員長	吉田 愛美

※五十音順

○ オブザーバー

所属/役名等	氏名
北区市民部 篠路出張所/篠路出張所長	高松 幸一

○ 事務局

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/事業推進課長	長南 成明
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画調整担当係長	若林 裕也
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	大路 陽介
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	岩浅 瑛大

【議事・進行】

1 はじめに

- 開会（挨拶、開催趣旨の説明）
- 自己紹介

2 議事

○ 資料説明

- 地域協議会の設置要綱について資料1
- 地区の現況・まちづくりの方向性について資料2
 - ◇ 計画策定の背景
 - ◇ 篠路駅周辺地区の現況
 - ◇ まちづくりの方向性（たたき台）

○ 意見交換

.資料3、4

- 地区の現況、方向性について
- まちに必要な取り組みと地域にできる取り組み

3 次回日程の案内など

【議事要旨】

1 はじめに

○ 開会（挨拶、開催趣旨の説明） （事務局）

- ・篠路駅周辺地区については、これまでも地域のみなさまに様々なご協力をいただきながらまちづくりを進めてきた。直近では、東口駅前広場の在り方についてご提言をいただき、今年の3月に駅前広場の区域に関する都市計画変更を行った。鉄道高架事業や土地区画整理事業などの社会基盤整備については、地域の長年の想いを受けて検討を進めてきたところでもあり、ようやくスタートラインに立つことができた。
- ・札幌市としては、篠路のまちづくりを公共事業だけで終わらせるのではなく、地域が主役となったまちづくり活動の維持・発展や、民間企業等による低未利用地の有効活用により、もっと住みやすいまちとなっていくことを期待している。そこで、こうしたテーマを中心に据えた新たなまちづくりの方向性を皆様方と一緒に検討していきたいと考え、地域の皆様方が「なにができるのか」、「どういったことをしたいか」という視点にも力を入れて、まさに地域が主体となって継続したまちづくりが進められるよう、地域と行政が協働の姿勢で作りあげていきたいと思う。そういう観点からざっくばらんにご意見を頂きたい。

2 議事

○ 資料説明

➤ 地区の現況・まちづくりの方向性について

（経緯と地域協議会について）

- ・篠路駅周辺地区は、篠路村の時代から始まり、北区北部地域の中心として栄えてきた地域である。札幌市のまちづくりの上位計画である札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、地域交流拠点に位置づけられており、地域の生活を支える主要な拠点としての役割が期待されている。当地区では、社会基盤の脆弱な東側の駅前や、横新道の慢性的な混雑、鉄道による地区の東西分断が課題となっており、こうした課題の解消を目指して、平成13年度に篠路駅周辺地区まちづくり事業計画を作成し、そこから少しずつ前進して、ようやく社会基盤整備の着手の見通しがたったところである。札幌市としては、地区のまちづくりを社会基盤整備で終わらせるのではなく、これを契機と捉え、市有地や駅前を活用したにぎわいづくりや地域主体のまちづくり活動を通して、もっと住みよいまちになっていただきたい。そこで、今回はこれらをテーマに据えて、今後のまちづくりの方向性、展開を示すものとして、新たなまちづくり計画を作っていく。

(まちづくりの経緯について)

- 当地区では、昭和60年度に篠路地区街づくり促進委員会の前身となる篠路駅周辺活性化促進期成会が設立され、早くから地域の方々がまちづくりに関心を持ち、行政にご協力を頂きながらまちづくりを進めてきた。このときから、駅周辺の整備や横新道の混雑解消を目的とした社会基盤整備が望まれてきていた。こうした背景がある中で、平成9年度にはまちづくりガイドラインを、平成13年度には篠路駅周辺地区まちづくり事業計画を策定した。
- 平成14年度に篠路アンダーパスの開通、平成16年度には花畔札幌線（駅前団地本通から伏籠川間）の整備が完了し、平成19年度から21年度には、駅の西側で再開発事業が実施された。また、平成25年度には、平成13年度のまちづくり事業計画をうけ、鉄道高架と区画整理を柱とした一体的なまちづくりを目指すため、篠路駅周辺地区まちづくり実施計画が策定された。また、札幌市まちづくり戦略ビジョンにおいて地域交流拠点として位置づけられた。平成27年度に策定された第2次札幌市都市計画マスタープランの中では、先行して取組を進める拠点として位置づけられている。
- こうした流れを受けて、まちづくりに関する調査や検討が活発化し、平成28年度以降、ワークショップやアンケート、社会基盤整備の都市計画決定を経てきた。そして、今年度から、社会基盤整備が進む地区において、新たなまちづくりの方向を示すためにまちづくり計画の策定に着手する。
- 篠路ではこれまでも地域の方々にたくさんのご意見を伺ってきた。篠路全体、あるいは駅周辺地区の将来像や方向性に関わるものとして、平成28年度の篠路白書、みんなの想い、平成29年度のアンケートがあり、駅周辺や市有地周辺に求められる機能に係るものとして、駅前広場の在り方検討会議や平成30年度のアンケート調査がある。また、地域では、すでに様々な地域団体による多様なまちづくり活動が展開されており、今回ゼロから議論することではなく、これまでの経緯・検討などを尊重して、まちづくり計画を進めていきたい。

(計画策定・地域協議会の流れと役割)

- これまでのワークショップやアンケートによるご意見、地域の活動をもとに、まちづくり計画のベースとなる議論の題材や、計画の要素を札幌市から提示させていただく。これに対して、地域協議会でご意見を頂きながら必要に応じて修正を重ねて、素案という形でまとめ、またこの素案に対してご意見を頂きながら修正を行う、というサイクルで策定していきたい。今年度は全3回の開催を予定しているが、主にこれまでのご意見や活動がきちんと反映されているか、また、今後のまちづくりで地域の皆さんが担う役割について議論して頂きたい。来年度以降は、パブリックコメントの手続きを経て、来年度中の策定を目指している。
- 第1章でまちづくりの背景、第2章でまちの現状、第3章でまちづくり方針、という流れを想定している。本日は第1章と第2章に関係する内容をこちら

で事前に整理しているのので、その内容の確認と、まちづくりの方向性のたたき台に関する意見交換ができればと考えている。今回のまちづくり計画は、行政・企業・地域の誰か一人が主役になるのではなく、関係者全員の協働で進めていくものとして、それぞれの役割に踏み込んで議論ができればと考えている。ただし、お示した計画の流れはあくまでもイメージなので、細かい部分については、これから皆さま方のご意見を頂きながら固めていきたい。

- 本日の第1回では、地区の現況とまちづくりの方向性を共有し、今後の活動・取組の展開について意見交換をしていきたい。次回は、後ほどのスライドでご説明させていただくまちづくり重点エリアについて、方向性を共有させていただき、本日出た取組みの展開に関して、特に担い手についてなど、意見交換ができればと思う。第3回目では、今後のまちづくりの展開を共有させていただき、地域の皆さま方が担える活動・取組について意見交換ができればと思う。今年度、第3回目までで出たご意見を参考にしながら、また、並行して開催する検討委員会の意見も踏まえつつ、計画の素案としてまとめたい。来年度開催予定の第4回、第5回では、計画のまとめと並行し、活動・取組の具体策について意見交換をしていきたい。

(まちづくり重点エリアについて)

- 今回、市有地や駅前を活用した賑わいづくりを考えているが、この2か所は、立地の特性や土地の所有形態から考えても、一緒くたに方向性を決められるものではないと考えており、駅前を含む土地区画整理事業区域を中心とした駅前エリアと、市有地を中心とした東エリアに分けて議論していきたい。また、駅前エリアの中でも、エリア全体として考えていくことと、エリアの中心にある駅前街区で考えていくことでは、内容は異なるものとなるので、計画をまとめる際にはそうした点も意識していきたい。ただし、駅前はあくまでも民有地なので、行政や地域の方々が自由に何かできる、というものではないため、計画の中ではエリアとして期待されること、というニュアンスでまとめたい。市有地については、ある程度、地域や行政の想いを受け止めた形で、駅前よりも利活用に踏み込んだ書き方ができる可能性があると考えている。駅前エリアと東エリアは、相互に連携し、相乗効果を生み出すことも期待している。それから既に開発が行われた西側エリアとの連携も考慮する必要がある。

(市の現況について)

- 人口は、札幌市全体としても、篠路としても、今後は減少する見込み。
- 世代ごとの人口は、年少人口、生産年齢人口は減少するが、老年人口は増加する見込みであり、高齢化の進行が予想されている。
- 5歳ごとの人口の流出と流入は、市全体と篠路では、異なる傾向が示されている。篠路では、15～29歳の流出が多く、30～44歳の流入が多い。篠路地域は郊外住宅地であるため、戸建ての住宅などを購入した子育て世代が

流入する一方で、就学や就職で学校や職場の近くに転出する方が多いと考
えている。

- 医療施設は、小規模から中規模の施設が地区全体に分布している。
- 福祉施設は、市有地のA街区を中心に、地域福祉モデルゾーンとして機能集積を進めてきた。特に東側には介護サービスに関する施設が多く集まっている。
- 商業施設は、東8丁目通や横新道、篠路通の幹線道路沿いに多く、駅東側の駅前には少ない状況である。
- 保育所は、徒歩圏に適正に立地している。駅前エリアについても、東エリアについても、既存の認可保育所があるため、新たな保育所の立地は考えにくい状況である。
- 小学校の児童数は、北区としては増加傾向にあるのに対して、地区としては減少傾向にある。また、中学校の生徒数は、北区としても地区としても減少傾向にある。
- 市民、住民の方が利用する公共施設として、篠路出張所と篠路コミュニティセンターが立地している。また、公園、緑については、大小さまざまな公園に加え、伏籠川や旧琴似川沿いの緑道など、緑豊かな環境となっている。
- 道路網は、幹線道路が南北、東西、概ね1 km 間隔で整備されており、道路網の骨格を形成している。駅周辺と骨格道路を結ぶ役割を東西駅前通や花畔札幌線が担っている。今後、基盤整備が進むと、より交通は円滑化される。
- 公共交通は、駅の東西にバス路線が形成されており、都心の札幌ターミナルや麻生駅、栄町駅と接続している。また、JRについて、篠路駅の乗降客数は近年増加傾向にある。

(ワークショップとアンケートについて)

- 平成28年度のワークショップでは、地区全体や駅周辺がこうあってほしい、という思いを将来像と機能像に整理して、「みんなの想い」として取りまとめられた。この時、機能像としては、「住まいを豊かにする」、「にぎわいをつくる」、という視点から「暮らしを支えるまち」、「まちの資源を活かす」、「回遊性をつくる」、という視点から「つながりを紡ぐまち」、「土地利用や街並みを考える」、「まちを活用する活動」の視点から「魅力を創造するまち」、という3点にまとめられた。
- 平成29年度には地域住民を対象にアンケートを実施し、ワークショップの参加者によるみんなの想いと、地域住民の意見に大きな相違がないことを確認した。また、みんなの想いと取りまとめ会議を開き、みんなの想いを実現させるために必要な取り組みなどを検討した。これがきっかけとなり、ランターンまつりが駅前で開催されるようになった。
- 平成30年度には、改めて地区の方向性や求められる機能についてアンケートを実施した。駅周辺施設や機能を考えるうえで地域住民が重要だと考えることとして、「買い物環境の充実」、「高齢者にやさしいまちづくり」、「子育て

てしやすい環境づくり」が上位に上がった。

(地域の強み・活かしていくべき点と、弱み・完全していく点について)

- エリアの特性では、強み、活かしていくべき点として、地域資源の豊富さ、神社の例大祭や歌舞伎、藍染めなどの文化、閑静な住環境、緑豊かな環境を挙げている。一方で、弱み、改善していく点として、生産年齢人口の減少、高齢化の進行や、若い世代の流出、新しく移り住んできた住民や来街者へ地域資源の魅力が伝わっていない点を挙げている。これらから、若い世代が住み続けたいとなる仕掛けや、地域資源の魅力を共有・伝え続けることが重要と考えられる。
- 地域活動では、強みとして商店街による活動や各団体の多様な取り組み、イベントがある一方で、今後の検討事項として、東口駅前広場など、今後新たに創出される空間をいかに活用するか考えていく必要がある。こうした取り組みや検討を単発のもので終わらせるのではなく、日常的な地域コミュニティの場となるように考えていくことが重要と考えている。
- 施設、土地利用の状況では、強みとして、各種の公共事業による基盤整備が進むこと、地区内に篠路出張所や篠路コミュニティセンターなど、公共施設が充実している点がある一方で、弱み、改善点として、駅前周辺にも関わらず機能集積が進んでいない状況が挙げられる。これらのことから、地域交流拠点としてのさらなる利便性の向上が必要と考えられる。また、強みとして、幹線道路沿いにスーパーなどの買い物施設が多いことや、高齢者施設が多い一方、弱み、改善点として駅前周辺の店舗数や賑わいの減少、市有地が低未利用であること、交流できる場の少なさ、アンケートで頂いたご意見を踏まえる必要がある。これらのことから、にぎわい・交流の場の創出や、継続的に子育て世代の流入を促せるような利便性の高い住環境が必要だと考えられる。

(まちづくりの方向性の検討材料について)

- 篠路地区は地域交流拠点に位置付けられており、地域の生活を支える主要な拠点としての役割が求められている。
- 公共施設に関する市の整備方針として、平成29年3月に、市有建築物及びインフラ施設等の管理に関する基本的な方針を取りまとめており、今後の財政状況の見通しなどから、施設総量の抑制や総量規模の適正化を図っていくこととしている。当地区は既に出張所とコミュニティセンターが立地しており、新たに何か公共施設を作るということは難しいと考えている。
- 民間企業等の進出ニーズに関する調査結果に関して、まず、駅前を対象とした調査は、高齢者向けの住宅は事業採算性も確保できるという可能性が見られたが、スポーツクラブやフィットネス、医療施設などは関心が寄せられたものの、工事費が高騰している中で事業採算性の確保に課題があるというご意見を頂いている。全体的に駅前の進出意向については低いという結果にな

ったが、市としても引き続き民間企業等への呼びかけを続けていくつもりである。駅前の機能を考えるうえでは実現性という面も視野に入れて検討していく必要がある。続いて、市有地を対象とした調査は、戸建て分譲、ホームセンター、家電量販店、ドラッグストア、コンビニ、スポーツ施設、温浴施設はニーズがあるのではないかと、という意見があった。用途地域での規制、その他法律の規制や、事業採算性にとらわれず頂いたご意見なので、ニーズが実現性に直結しているわけではない点にご注意いただきたい。また、両方のエリアに共通して言えることとして、これらの調査は新型コロナウイルス感染症が発生する前の調査なので、そうしたものの影響により現在の状況が変わっている可能性もある。調査は、現在計画されている社会基盤整備が完了して、基盤整備が整った際に進出が考えられるか、という前提でヒアリングを実施している。また、これらのヒアリングは、あくまで一旦の感触をつかむための調査であり、業種ごとに1～2社程度しか行っていないので、参考程度としてお考えいただきたい。については、困難と回答されたものについても一旦は△で表記をしている。市としては引き続き、民間企業との対話等を進めていくつもりである。

(まちづくりの方向性のたたき台について)

- 第3章ではまず、一番大元になる基本理念・将来像を先頭に、まちづくりの方向性、まちづくり重点エリアの方向性、今後のまちづくりの展開、関係者の役割という流れで構成できればと考えている。本日は、基本理念から重点エリアの方向性のたたき台を示させていただき、のちの意見交換で、今後のまちづくりの展開についてご議論頂きたい。
- まちづくりの方針の要素案として、大元になる基本理念と、それをかみ砕いた目指すまちの将来像として整理している。地域のワークショップを取りまとめた「みんなの想い」から、基本理念として、「誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまち」、将来像として、「暮らしを支えるまち」、「つなぎを紡ぐまち」、「魅力を創造するまち」を引用する形で考えている。
- 重点エリアの1つである駅前エリアについて、現況、課題として、生活利便施設やレンガ倉庫などの地域資源が存在しているが、駅利用者や地域の方が日常的に立ち寄れる場所が少なく、低未利用地が多い、また西側に比べて暗い印象があるという意見がある。アンケート結果より求められているものは、買い物環境の充実や高齢者に優しい環境、子育てしやすい環境だった。このエリアに必要な視点として、駅前広場など基盤整備で創出される空間の活用と、駅前としての魅力の向上が考えられる。また望ましい機能としては、駅利用者や近隣の方の利便性が高まる日常的な交流、滞在の場が考えられる。
- 続いてもう一つの重点である東エリアについて、現況として、既に福祉施設や学校、大型店舗、コミセン、パークゴルフ場など多様な施設が立地しており、集客交流のポテンシャルを持っていること、また幹線道路に面しており車による広域アクセスが可能なが挙げられる。アンケート結果より求め

られていることは先ほどと同様に買い物環境の充実、高齢者に優しいまち、子育てしやすい環境だった。このエリアに必要な視点としては、既にある施設や周辺環境への配慮が重要と考えられる。また、望ましい機能としては、休日に家族で訪れられる施設や若い世代を呼び込む施設が考えられる。

- 地区内では特定の場所にこだわらず地域主体のまちづくり活動が今後も継続的に展開されることを期待している。資料にてお示しているのは、現在の活動のほんの一例である。様々な活動が展開されることで、多様な世代が地域に愛着を持ち、住みやすい環境や、地域のコミュニティを維持していければと考えている。
- 各エリアの方向性の素案として、駅前エリアでは交流滞在が可能な環境づくりや、駅周辺の利便性、魅力の向上により、地区の中心として日常的なコミュニティの場や賑わいの形成を目指していければと考えている。また、東エリアでは住みたくなる、住み続けたくなる機能の獲得や周辺環境との連携・調和により、子育て世代を中心とした多様な世代の流入増、流出減に資する活用を目指していければと考えている。地区全体としては、現在地域で取り組まれている多様な活動、イベントを大事にして、今後もこうした活動を継続させていくことが重要だと考える。
- 今後まちづくりの展開を考える上では、他の拠点のように駅前に一点集中でまちづくりを進めるのではなく、駅の西エリア・駅前エリア・東エリアを地区の核として、面として機能がバランスよく配置されるようなまちづくりを考えている。また、他の拠点では公共交通を中心として歩いて暮らせる街づくりを打ち出しているが、篠路では自家用車による移動も欠かせない移動手段となっているので、そうしたことも踏まえて方向性を考えていく必要があると考えている。

(事務局)

(重要な視点)

- なぜそもそもこのまちづくり計画を作るのか、というところ。30年以上にわたり基盤整備の作り方の議論が進められてきたが、基盤整備をして終わり、それが目的ではなく、その先に基盤を使ってどのようにまちづくりを進めていくのかが非常に重要なポイントだと思う。
- これまでの議論やアンケート調査をはじめとした地域の方々のニーズを踏まえながら、駅周辺のまちづくりが終わる10年後にめがけてどう進んでいくのか、このあたりもまちづくり計画の中で示していければと思う。今年度は計3回だが、地域協議会自体は来年も続く。計画を作ることを目的とするのではなく、新しい活動、発展に資する議論がこの場で生まれていくことを期待している。
- 地域の課題、強みに関して、資料22・23ページの課題を全て潰すことはなかなか難しいが、地域の強みをみんなで磨き上げていく、その仕組みづくりというものも重要と考えており、そうした部分についても議論しながら進

めていければと考えている。

(委員)

(西エリアの位置づけについて)

- もうすでに開発完了と位置付けされている駅の西エリアに加えて駅前エリア、東エリアの三つで重要、という考え方か。既に駅西エリアは完了という解釈か。

(事務局)

- 駅を中心に広く篠路駅周辺地区として考えていきたいので駅の西エリアも含んでいる。西エリアは、一部道路工事が残っており、そうしたものは進めていくが、概ねハード整備は整っていると思っているので、本計画の中で新しい機能の導入を考えていこうというものではない。

(委員)

(市有地の利活用について)

- 東エリアの市有地 A、B、C について、市有地の土地利用を含めて考えていくという理解でよろしいか。

(事務局)

- 今、既に B 街区はパークゴルフ場で使っているが、これも含めて今後検討委員会等でも検討していくので、いろいろとご意見を頂ければと思う。

○ 意見交換

- 地区の現況、方向性について
- まちに必要な取り組みと地域にできる取り組み

意見交換の内容については、別紙にてとりまとめ

(班の意見)

- 駅前の土地の地権者と、コミュニケーションをしっかりとっていくことが大事ではないかという意見があった。
- 昔、駅前には商店があり栄えていたが、今は減ってしまってパチンコ屋さんがあったところも空き地になっているという状況。まちづくり計画を作るにあたって、これを契機として捉えて、検討を進めていければ良いと思う。
- 倉庫は市が持っている倉庫ではなく、地権者がいるため、そういった方々にまちづくりに協力をお願いしていくというところが、なかなか難しいのではないかという意見があった。
- 今後必要な取り組みとして、イベントを行う空間がまちの中で手狭になっており、市有地を、地域でイベントができるような場所として使えたらいいという意見があった。イベントの際にはキッチンカーが入ることも考えられる、

という意見もあった。

- 地権者との調整は難しいという意見もあったため、高架下を有効活用していくことが有効ではないか、歩いて行けるスーパーやコンビニ等があると魅力が高まるのではないか、という意見があった。

(事務局)

- 駅前街区や市有地の活用を契機として駅周辺も活性化していくようなコンテンツ作り、こういったところに地権者の方を上手く巻き込んでいって、まちづくりを進めていく観点で、課題、期待が示された。暮らしという観点では、いろんなイベント、お祭りをするためのオープンスペースがちゃんとまちにあって、そこを活用して行くのが地域の人ということになるとよい。また、鉄道高架事業により生じる高架下空間について、そこをコンビニ等で利用するなど、足りてない機能を導入するのがよいというご意見だと思う。

(班の意見)

- もう少し具体的な絵が知りたいという意見が挙げられ、それが示されてからの議論に期待する声もある一方、駅前の利便性を高めることはまず重要、という意見があった。
- 人口流出のグラフは衝撃的で、それはどうにかして行かないといけない。篠路地区の大半は住宅地なので、新しい何かをここでやることは難しいかもしれないが考えていかなければいけない、という意見があった。
- コミュニティセンターと出張所を間違えて来る方が多く、改善できればいいという意見があった。
- 人の流れ、動きが生じるように施設を作ることが大事だ、という意見があった。今回、3つのエリアを設定しているが、各エリアに集まれる広場や温浴施設などが一つずつあると、そこで人が流れて回遊性が生まれる、という意見があった。
- 高架化により東西動線の分断が解消されるところに流れを作る、ちゃんと使ってもらえることが大事、という意見があった。
- コミセンに展示してある藍染めや伝統文化を発信できる場所を、伝統をつないでいくという意味ではもう少し大きいところを作っていきたい、という意見があった。
- 子育て、高齢者向けのイベントもやっているし、お祭り等々も続けていかななくてはならない、支援の体制があったらもう少しできるかもしれない、という意見があった。

(事務局)

- 地区の利便性を高めていって、ちゃんと人はそこに集まっていく、そういうところが必要という話と、地域全体の人口流出をいかに止めるか、若い人を中心に篠路がいい街だと思ってもらえることが大事という意見だと思う。人の流れを生み出して、使ってもらえる仕組みを作っていくところがキーワードだったと思う。

(班の意見)

- 地域の活動はたくさん取り組まれているが、現状として、なかなか周知が行き届いていないという意見があった。
- 地域の資源として自然が多い、景観も素晴らしいものがあるので、子育て世代等により利用できるようなものを残してしていくことができればという意見があった。
- 市有地の活用で、昔、駅前にあった温浴施設を復活するといいいのではないか、という意見があった。
- 若い世代、活動されている方が集う場所がないので、駅前や市有地にカフェなどの集まれる施設があると良いのではないか、という意見があった。
- 市有地や駅前の開発で共同住宅が難しいという話が市からあったが、住宅の分譲地という可能性はあると思う。篠路地区は雪が多くて大変なので、そうした点を改善していくような住宅をつくるのも必要なのではないか、という意見があった。
- まちの中心地やシンボリックなものが明確でないため、篠路に住んでいるという認識を持ちにくいという意見があり、今後、まちの魅力を考えていくにあたり、そういった点を明確にしていく必要があるのではないかという意見があった。
- 駅の東側が暗いというイメージがあると思うが、昭和の街並みであったり赤レンガ倉庫などを魅力と捉えて、情報発信、周知していくことが必要なのではないか、という意見があった。篠路神社はひとつのシンボルであり、祭りのある日は学校の授業が午前中で切り上げられて神社のお祭りに行けるようになっているし、今はコロナ禍根で見込めないが、最近外国人の注目的としてももう少し情報発信していくということが出来るのではないか、という意見も出た。
- 駅前で民間に活用を期待していくのではなくて、パークゴルフ場でスノーフェスティバルを開催しているように、すでに使えるところを活用していくべきという意見があった。
- 西側には銀行や郵便局といった機能があるが、東側には、西側にはない機能を持ってきて篠路駅周辺地区全体で機能を完結できるようにすることが必要という意見があった。交通の便が良くないと思っている方が（地域外に）多いが、今篠路駅周辺で暮らしていて立場としては、暮らしやすいまち、というご意見もあり、エリアの中で生活が完結するという特徴も、住みやすさに繋がっているという意見があった。
- 地域の活動について周知が行き届いていないという意見が最初にあったが、SNSを活用した情報発信や、PTAさんのおやじの会など、人と接触する機会が情報発信していくことが必要という意見があった。現状では、集うには西側に行かなければならず、ハードルがあるという意見があり、そういった方々が集える場所というところも東側駅前に作れると、活動する方々のコミ

ユニケーションが、活発になっていくのではないかという意見もあった。

(事務局)

- ・情報周知の観点でご意見があった。また、昔は駅前に銭湯があったということだが、そういう機能があれば、人の集える場所になるという意見があったと思う。篠路に住んでいるという意識、自分たちの街を誇れるようになっていければ、若い方が流出することもなくなるような環境整備ができるのではないかというご意見や、暗いイメージがあるという課題を逆手にとって地域のブランディングをしていけばというご意見もあり、新しい視点だと思う。

(事務局)

(総括)

- ・今あるものではなく 10 年後 20 年後の需要をちゃんと見てまちづくりをしていかなければ、というご意見があり、それは重要な視点だと思った。これから区画整理や鉄道高架をやって 5 年 10 年でまちを作っていく中で、10 年後 20 年後にどうあるべきか、ということを考えながらまちを作っていく、地域の皆さんはどう活動していくか、という点をまちづくり計画の中でも盛り込んでいければと思う。
- ・頂いたご意見は整理して、検討委員会に報告する。

(委員)

(市有地の利活用について)

- ・10 年後 20 年後を考えるとということが印象に残ったが、いま篠路に住んでいる方々が 10 年後 20 年後に高齢になっていく中で、自分たち若い世代や子ども達が引き続き篠路に住んでもらえるようなまちづくりが今後、大事になっていくのではないかと考える。親の代から引き継いで住んでいる方もたくさんいらっしゃるので、今後も住んでいただけるようなことに着目していければと考えている。その上で、青年が一度は家を出てくことは避けられなく、仕方ないと捉えて、その後、三十代、四十代になった時に篠路に帰ってきて頂けるようなまちづくりになっていければと思う。

(事務局)

- ・次の世代に何をちゃんと残していくのかということになるのかと思う。そこをしっかりと議論していきながら、このまちはどうあるべきということを明確にしていければと思う。

(委員)

(商業施設の立地について)

- ・住んでいる地域は、コンビニは歩いて 5、6 分の所にあるが、スーパーには歩いて行けない。コンビニでは全てはそろわないので JR の生鮮市場のような規模のものが作れないのか。それにより利便性が向上すれば、例えば注文住宅を作ったとしても、十分に採算がとれると思う。西側にはコンビニを要

請したが、叶わなかった。高齢者施設は篠路にいっぱいあり、これ以上いらないと思う。人口推計は40年ぐらいのピークで、高齢者どんどん少なくなっていく。そういったものを作ってしまうと、30年後を過ぎると倒産していくような事態になっていくのではないか。まちづくりというのは50年スパンとかで考えていかなければいけないので、若い人が増えるようなことを考えていかなければいけない。

(歴史の継承について)

- 篠路の歴史は札幌市内でも古く、150年以上の歴史があるが、資料館がないのは篠路だけだと思う。10年後には出張所を建て替えると思うが、そばに資料館を作っていただきたい。篠路の若い世代に篠路の歴史を知ってもらうことが一番大切ではないかと思う。

(事務局)

- 子育て世代や子どもが安心して暮らせるためには歩いて暮らせるまちが必要という意見だと思う。コンビニなどが出店してくれないということは、裏を返せばマーケットがこの辺りにはないということになると思うが、人が集うとか、小さい取り組みを重ねていって、出店したくなるようなマーケットを作っていくというところも、地域で取り組めれば良いと思う。賑わいがあるということやいい街であることをアピールしていく。その中で、歴史・文化を継承していく仕組みづくりも考えていく必要があるのかと思う。
- 次の世代に何を残すかというところで、歩いて暮らせるまち、駅東側、西側の関係性や市有地と駅前の関係性、この辺りをしっかり作り込んでいって、まちづくり計画の方に反映していくことが大事だと、ご意見をいただいたと思う。

3 次回日程の案内など

(事務局)

- 次回の地域協議会は11月下旬頃を予定している。委員の皆様には後日、日程調整のご連絡をする。